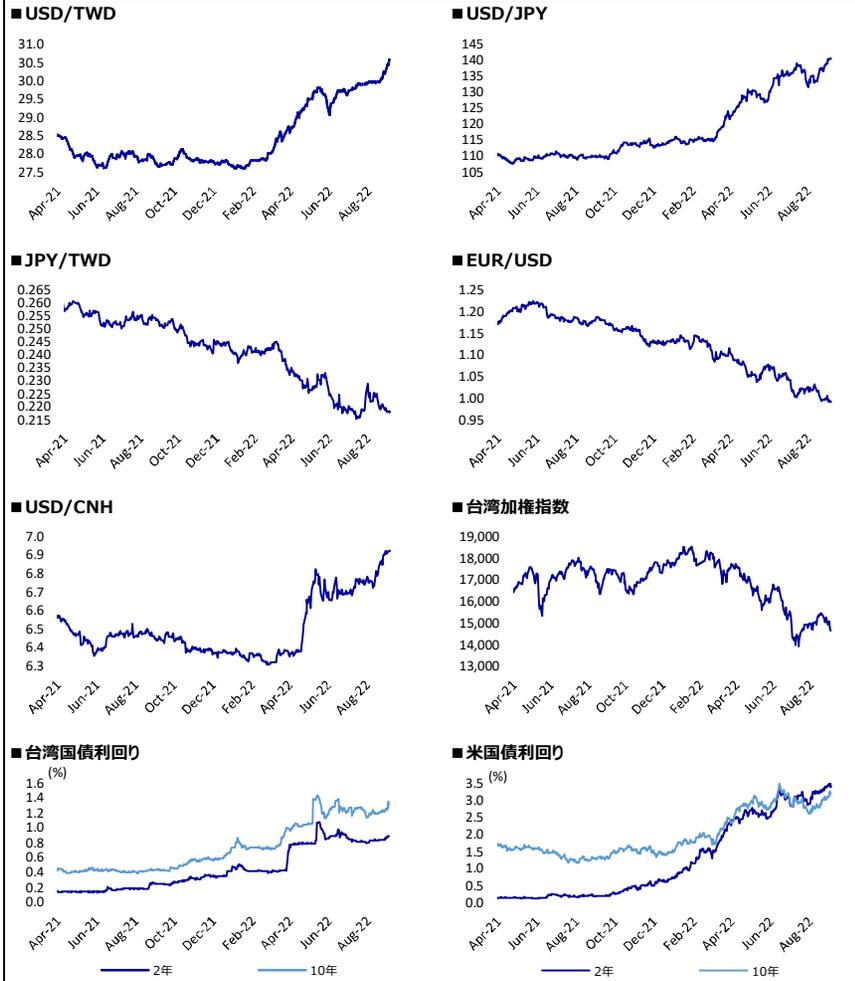


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは上昇し、約2年9か月ぶりの水準に。週初8/29は30.280でオープン後、前週末のジャクソンホールでのパウエルFRB議長の講演を受け、米株が大幅安となったことから台湾株も急落。米金利の上昇、ドル全面高となる中、外国人投資家の台湾ドル売りが加速し、じりじりと上昇し、一時30.40台に。8/30も前日の流れを受けて、台湾ドルは売られやすかったものの、月末の輸出企業のドル売りもあり上値は押さえられた。8/31は約2年4か月ぶりに30.5台に乗せたが、滞空時間は短く、月末の輸出企業のドル売りや台湾株の反発もあり、30.36付近まで下落。しかし、9/1には再び台湾株安台湾ドル安の流れとなり、30.5台に戻し、9/2は米雇用統計を控え、投資家が警戒モードの中、流れは変わらず、ドル台湾ドルは上昇し、30.599に。最終的に先週比1.2%ドル高台湾ドル安の30.588と約2年9か月ぶりの水準で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は880.1億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は約24年ぶりに140円台に。週初8/29は137.65でオープン後、前週末のジャクソンホールでのパウエルFRB議長のタカ派な講演を受けたドル買いが継続し、139ちょうどまで上昇。8/30はドル買いが一巡し、138円台前半まで下落したが、米8月消費者信頼感指数が予想を上回ると米金利と共にドル円も上昇し、139円台前半に。8/31は月末の調整売りから138円前半まで下落したが、終盤にかけて米金利が上昇すると139円付近まで戻した。9/1は米金利の上昇から7月につけた今年の高値139.38を超え、139円台半ばで推移。その後、8月ISM製造業景気指数が発表されると良好な結果を受けて、ドル円は約24年ぶりに140円台を突破。9/2は米8月雇用統計が発表され、非農業部門雇用者数は予想より増加したものの、失業率は予想より悪化したため一時140円を割ったが、すぐに140.80まで上昇する乱高下となった。買い一巡後は、米労働市場は概ね良好と捉えられたものの、FEDが金融引き締めを加速させるほどではないとの見方から米金利が低下するとドル円も落ち着き、140円ちょうど付近で推移。最終的に先週比1.8%ドル高円安の140.13で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD** 予想レンジ：30.400-30.900  
30を超えてから、台湾ドル安が止まらない。欧州のガス供給懸念から景気後退リスクも高まっており、月末を超え、輸出企業のドル売りも見込みにくい中、安全資産であるドルが買われやすい傾向が続くであろう。

**■ USD/JPY** 予想レンジ：138.00-143.00  
米雇用統計もFEDの政策スタンスを変更する内容とはならず、ドルが強い状況が続くであろう。今週はECB理事会が予定されているが、75bpの利上げ予想も出る中、日本の金融政策が欧米との違いが顕著になり、円が買われやすい状況にはなりにくいであろう。

今週の予定

9/5 (MON)	米国休場
9/6 (TUE)	台湾8月CPI、米8月ISM非製造業景況指数
9/7 (WED)	台湾8月貿易収支、米7月貿易収支
9/8 (THU)	ECB理事会
9/9 (FRI)	台湾休場

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。